



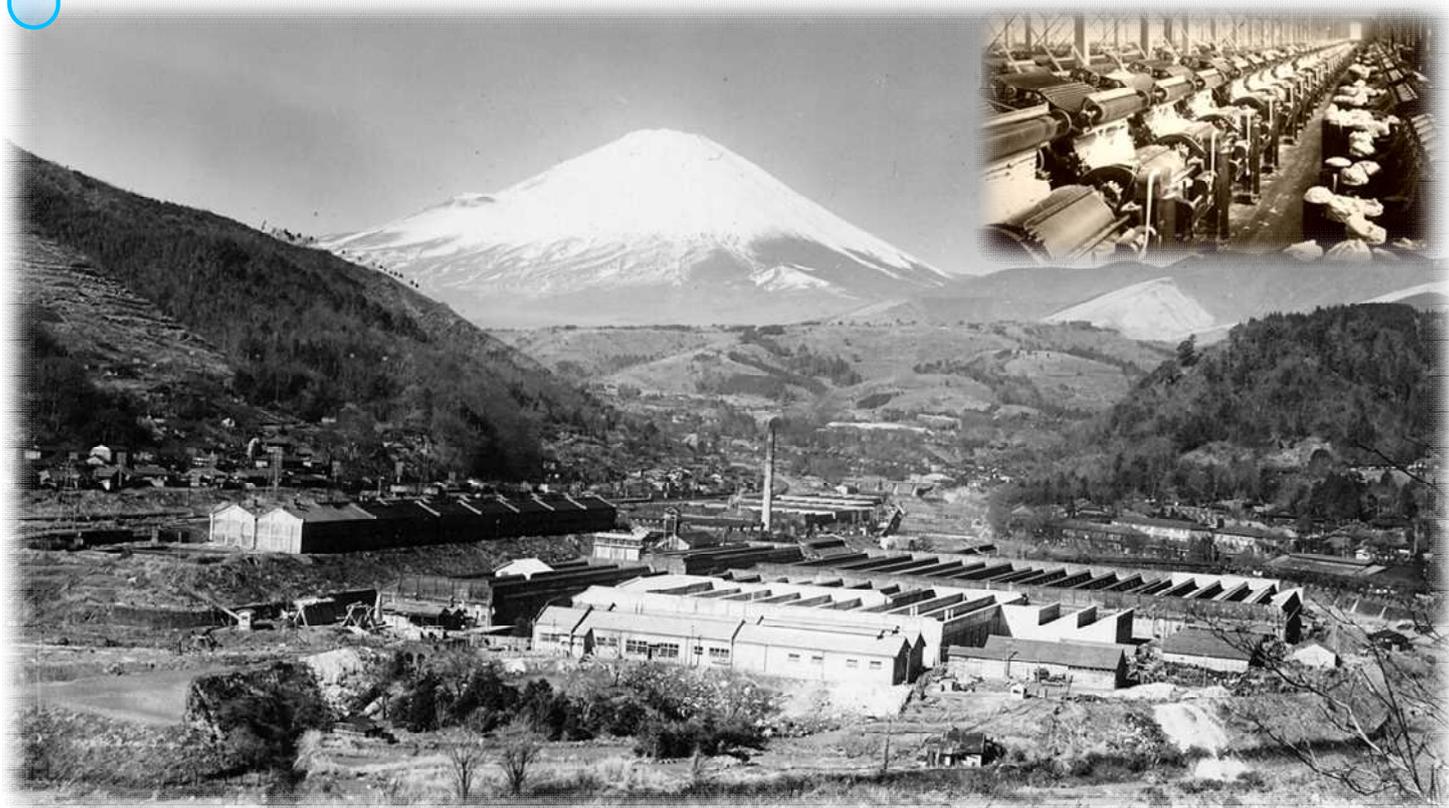
## 富士山の清流が織り成した産業革命

### ストーリーの概要

富士山は、古より信仰の対象として畏敬されるとともに、数多くの芸術作品を生み、その自然の恵みは山裾に生きる人々の生活を支えてきた。

日本が欧米列強と肩を並べんと、近代国家への道を駆け上った明治時代。水力によって産業振興を目指す者たちがいた。その志を実現させたのが、富士山麓の豊富な湧水であった。

富士山登拝の拠点であった東西のまちには、富士山の恵みで新たな時代を切り開いていった人々の遺産が、今も確かに受け継がれている。



# トピック

## 登拝のまちと近代化



富士山信仰の拠点

左:富士山本宮浅間大社・富士宮市  
右:富士浅間神社(須走浅間神社)・小山町

- 世界文化遺産の富士山。戦国時代以降、各地から富士山登拝者が訪れ、山麓のまちに賑わいをもたらした。
- 時は移り、国を挙げて近代化に進む明治の日本。富士山麓の豊富な水に目を付け、産業振興を考える者たちがいた。
- 富士山登拝の東西の拠点であった小山町と富士宮市は、富士山の恵みの水とともに、新たな時代へ踏み出した。

## 東麓の紡績のまち



豊門公園西洋館2階では、小山町の紡績の歴史を紹介

- 明治 31 年(1898)、大都市と鉄道で直結していた小山で、水車動力の紡績工場が操業を始めた。
- 開業まもなく経営の危機に直面した工場を救ったのは和田豊治である。和田は、入社翌年には赤字を全額解消し、生産を拡大した。
- 工場の設置と発展は、農業が中心であったまちの姿を大きく変えていった。

## 清流を電力に



富士山の南西麓を流れる芝川

- 明治後半期、各地で工場の電力化が進み、電力需要が急拡大したが、火力発電の主原料・石炭の価格は高騰していた。
- 活路を開いたのは水力発電である。小山の紡績業は、水車動力から水力発電へ転換し、電力の一部は地域に無償で供給され、まちに明かりを灯した。
- 富士宮でも電力化の動きに呼応していた。舞台となったのは、芝川沿いである。昭和初期までに 15 力所の水力発電所が造られた。

## 富士の恵みを活かして



湧水を活かした酒造り  
写真提供：富士正酒造

- 富士山が恵む水は、紡績や発電だけではなく、特産品も生み出した。
- 江戸時代頃から湧水を活かした酒造りが行われてきた富士宮では、近年はクラフトビール等も生産される。
- 昭和 8 年(1933)に富士山の西麓で始まった養鱒業も、近代的な水利用の一つである。

# 清流と産業をキーワードとする構成資産

- 明治時代以降の富士山麓における水を利用した産業を物語る小山町と富士宮市に所在する 13 件の文化財が構成資産

## 構成資産 1 ～紡績のまち小山エリア～

- 日本が近代化に歩みを進める明治 31 年(1898)、鉄道開設により大都市圏と結ばれた小山町で、安定的で豊富な水を利用して紡績工場が操業を開始した
- 開業まもなく、経営の危機を迎えた紡績会社を立て直したのが、和田豊治である。小山の紡績業は、先行業者が手がけていないニッチ分野に進出することで生産を拡大した
- 和田は、大正 13 年(1924)に亡くなるが、従業員や町民の福利厚生施設としての利用を願い、東京の邸宅を小山の地に寄贈する



和田豊治 (1861～1924)

- 翌年の大正 14 年(1925)、和田の旧宅は工場群を見下ろす高台に造られた「豊門公園」に移設された
- 公園の名は、紡績業の発展に尽力した和田豊治と、三門と称せられた森村市左衛門・日比谷平左衛門・濱口吉右衛門に由来する



### ① 豊門会館(旧和田豊治家住宅)和館・洋館

駿東郡小山町藤曲

- 富士紡績創業期の専務取締役、社長であった和田豊治の旧宅
- 建物内では、「渋沢栄一」、「勝海舟」、「徳富蘇峰」、「佐久間象山」等の書も見学できる



和館内部(2階書院)



洋館内部

#### 豊門会館(和館・洋館)

時:10:00～16:00 料:300円  
休:火・水曜日、年末年始ほか



### ② 豊門公園西洋館(旧豊門青年学校)

駿東郡小山町藤曲

- 従業員や地域住民の教育のために、昭和5年(1930)に建設
- 2階は紡績の歴史が学べる資料館

#### 豊門公園西洋館

時:10:00～16:00 料:無料 休:火・水曜日、年末年始ほか



ほうもんこうえんせいもん  
③豊門公園正門

《国登録有形文化財》

駿東郡小山町藤曲

- 重厚な外観で、園路の入口を飾るコンクリート製の正門
- 大正 14 年(1925)建設



ほうもんこうえんふんすいせん  
④豊門公園噴水泉

《国登録有形文化財》

駿東郡小山町藤曲

- 公園の中央、豊門会館正面と西洋館正面の交点に位置する
- 昭和前期に建設された



ほうもんこうえん わ だ くんにとくひ  
⑤豊門公園和田君遺徳碑

《国登録有形文化財》

駿東郡小山町藤曲

- 和田豊治の功績を讃え、大正 13 年(1924)に町民が建立した



森村市左衛門胸像

もりむらばし  
⑥森村橋 駿東郡小山町小山

《国登録有形文化財》

- 明治 39 年(1906)、物資搬入のためのトロッコ用として架けた橋
- 橋の名は、創業に携わった森村市左衛門に因む
- 日本人が設計・製作した鋼製トラス橋としては、国内初期のもの



あゆさわばし  
⑦鮎沢橋 駿東郡小山町小山

- 工場と社員寮を結ぶため、明治 40 年(1907)に鮎沢川に架けられた鉄筋トラス橋

※工場敷地内につき、橋を渡ったり、近くよることはできません



ぼうせきぎょう しりょうぐん  
⑧紡績業の史料群 駿東郡小山町藤曲

- 豊門公園西洋館の2階で展示される創業した明治期から平成までの社内文書、対外文書、社報、給与明細等
- 豊門公園西洋館の横には、紡績業の操業に関わった日比谷平左衛門の像が立つ



おやま みず なさいばいけいかん  
⑨小山の水かけ菜栽培景観 駿東郡小山町阿多野 他

- 水かけ菜は、10 月頃稲刈りを終えた田に高畦を作り種を蒔き、水をかけ流して育て、1月下旬から2月下旬に収穫される
- 明治 20 年代の東海道線敷設の際、労働関係者が食したことが調理の始まりと言われ、近代化とともに現れた食材である

## 構成資産 2 ～清流と発電のまち富士宮エリア～

- 小山の紡績工場が生産を拡大した明治後半期、各地で工場の電力化が進み、電力需要が急拡大した
- 富士山麓の東西のまちは、豊富で安定した水量を誇る清流に活路を見だし、水力発電所の建設に取りかかった
- 富士宮市を流れる芝川沿いには、明治 43 年(1910)の発電所建設を契機に、昭和初期までに 15 カ所の水力発電所が造られた
- 富士宮では、現在も水力発電所が稼働し、市民の生活や産業を支えるとともに、豊かな水が、養鱒や山葵の生産、酒類の醸造に活かされている



富士宮のニジマス料理



いのかしらはつでんしょ しゅすいこう えんてい

### ⑩猪之頭発電所(取水口・堰堤) 富士宮市猪之頭

- 明治 43 年(1910)10 月、富士製紙会社の関連会社である富士水電株式会社によって建設された
- 県内で稼働している水力発電所の中で最も古く、取水口・堰堤は当時のものが残る

※発電所内は非公開



しらいとはつでんしょ しゅすいこう えんてい すいそう

### ⑪白糸発電所(取水口・堰堤・水槽) 富士宮市上井出



- 大正 5 年(1916)、富士水電株式会社により建設
- 発電所は建て替えられているが、取水から発電所への送水施設が古いまま残されている

※発電所内は非公開



さんろく みず りょう ようそんけいかん

### ⑫山麓の水を利用した養鱒景観 富士宮市猪之頭 他



- 昭和 8 年(1933)、国内三番目の県営養鱒場として開設された富士養鱒場を始め、市内には富士山由来の豊富な湧水を用いた 14 ヶ所の養鱒場がある



ふじのみや さけづく

### ⑬富士宮の酒造り 富士宮市

- 市内には4軒の造り酒屋があり、いずれも江戸時代から続く
- 富士山の懐に抱かれ、伝えてきた酒造りの技である

- 昭和から平成を経て令和を迎える中で産業も姿を変え、小山町の紡績工場は姿を消したが、富士山の恵みの水は時代に応じて新たな産業を巻き起こし、地元経済や地域雇用を支え続けている
- 山麓の近代産業遺産巡りは、富士山の新たな魅力発見の旅となるだろう

# 「富士山の清流が織り成した産業革命」のストーリー

## ○富士山の恵み

世界文化遺産の富士山。古来、幾度となく噴火を繰り返したこの山を人々は畏れ敬い、その威容から芸術を生み出し、山裾では恵みを活かして人々が生活を営んできた。

戦国時代以降、各地から富士山登拝者が訪れ、麓のまちは発展を遂げた。そして時代が移り、明治時代。日本は近代産業を移殖・振興し、急速に近代国家へ歩みを進めた。富士山登拝の拠点であった山麓のまち、現在の小山町と富士宮市は、富士山の恵みとともに、新たな時代への一歩を踏み出した。

## ○近代化の波

日本が欧米列強と肩を並べんと、国を挙げて産業の近代化を目指す中、国内の豊富な水の力をもって日本の産業振興・国家発展を目指す者たちが現れた。彼らが目を付けたのが、一年を通じ豊富で安定的な水量と高低差による水勢を持つものの、他の産業が未進出で、鉄道開設により大都市圏と結ばれんとしていた富士山麓であった。

彼らは明治20年（1887）に会社を設立すると、富士山南西麓の潤井川沿いに水車動力の工場を建て成功を収めた。富士山南西麓では、富士山由来の水を活かした製紙業も行われるようになり、まちに新たな活気を呼び起こしていた。

この成功は、同じく豊富な水を持つ東麓のまち-現小山町-を、工場誘致へと突き動かした。明治31年（1898）、東京・横浜と鉄道（現東海道線御殿場線）で直結していた小山において、富士山と箱根山系さかわがわの水が集まる鮎沢川（酒匂川の上流域）沿いで、水車動力の巨大な紡績工場、富士紡績会社小山工場が操業を始めた。

この当時、鮎沢川の流れは、鉄道唱歌第1集13番に「いでてはくぐるトンネルの 前後は山北小山駅 今もわすれぬ鉄橋の 下ゆく水のおもしろさ」とうたわれるほど印象的であった。

## ○紡績業とまちの発展

小山の紡績業は、初めから順調に進んだわけではない。開業まもなく経営の危機に直面した。

倒産の危機を迎えた紡績工場を立て直したのが和田豊治（わだとよじ）である。和田は、明治34年（1901）に富士紡績に入社すると、翌年には赤字を全額解消し、明治39年（1906）には当初に倍する生産量に押し上げた。

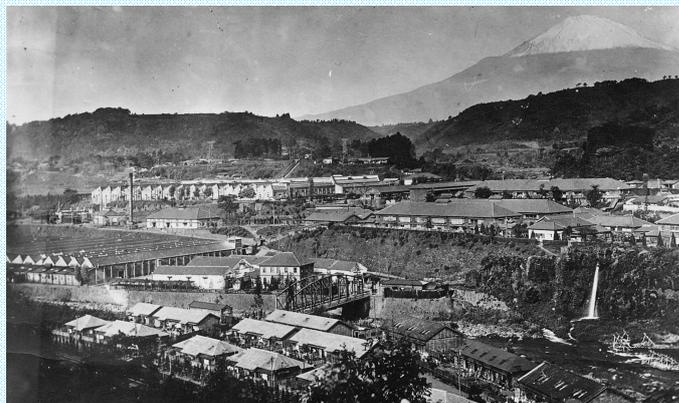
小山の紡績業の特徴は、ニッチ分野への進出である。綿紡績では、先発する主要大企業の支配が及ばない中細糸や極太糸の生産を行うとともに、絹紡績では、廃物の屑繭を新技術で優良絹糸に変え、「富士絹」としてブランド化し、新たな市場を開拓していった。

工場の設置は、それまで農業が中心であった町の姿を大きく変えた。一時は、東海道本線で夜に西へ向かうと横浜の次に出会う明るい町といわれるほど、小山は発展した。

鮎沢川に架かる森村橋は、対岸を走る東海道本線と工場を結ぶために造られた鉄道トラス橋であり、まちの近代化を今も物語る。

## ○水車動力から電気動力へ

小山の紡績工場が生産量を増した明治後半期の日本、各地で工場の電化が進み、電力需要が急拡大した。新たな発電所の建設は急務。しかし、火力発電の主原料である石炭価格は高騰し続けていた。このジレンマを解決したのが水力発電である。



建並ぶ紡績工場(小山町)

小山の富士紡績は、独自に水車動力から水力発電への転換に乗り出した。明治40年（1907）6月の鮎沢川での発電所稼働を皮切りに、大正時代の終わりまでに7か所の水力発電所を建設した。

電力は、自工場のみならず、地域に優先的にかつ一部無償で供給され、さらには京浜工業地帯にも供給され、日本の工業を支えた。

同じ頃、富士山を隔てた西側、現在の富士宮市でも電力化の動きに呼応していた。水力発電は、芝川沿いが舞台となった。明治43年（1910）の発電所建設を嚆矢に、昭和初期までに15か所で水力発電所が芝川沿いに造られた。

### ○紡がれる歴史

小山の紡績業を牽引した和田豊治は、大正13年（1924）に亡くなるが、従業員や町民の福利厚生施設として利用されることを願い、東京の邸宅を小山の地に寄贈した。

逝去の翌年に工場群を見下ろす高台に造られた「豊門公園」に移設された旧和田豊治邸であるが、実際には政財界人をもてなす迎賓館的な利用がなされた。一方、敷地内に建てられた西洋館は、富士紡績の若手幹部職員に対する研修施設や社員寮として利用された。

昭和から平成を経て令和を迎える中で産業も姿を変え、小山町の紡績工場は姿を消した。しかしながら、紡績が残した遺産は今も町民と共にある。

住民と従業員の福利厚生のために造られた豊門公園は、令和元年に再整備され、西洋館の1階はレストラン、2階は小山町の紡績の歴史を学ぶ展示が行われている。時を超えて和田豊治邸は、その遺志のとおり町民のためのものとなった。

また、水の恵みは、小山町の特産品である水かけ菜や山葵の生産に活かされている。水かけ菜は、明治20年代に東海道線敷設の際、労働者の関係者が食したことが調理の始まりと言われる。

近年は、豊かな水を求め食品系の工場がこの地に進出しており、令和6年（2024年）は国内最大規模の陸上養殖施設が誕生し、小山産サーモンの出荷が始まった。

一方、富士宮市では、現在も水力発電所が稼働し、市民の生活や産業を支えると共に、豊かな水が養鱒や山葵の生産、酒類の醸造に活かされている。富士宮市における養鱒業は昭和8年（1933）の県営養鱒場にはじまり、民間に広がったもので、富士山の水の近代的な利用の一つの姿である。

また、富士宮市域では江戸時代頃から湧水を活かした酒造りが行われている。富士山に抱かれて酒造りが続けられてきたまちであり、近年では、クラフトビールも生産される。

富士山の恵みの水は、山麓の東西のまちで、時代に応じて新たな産業を巻き起こし、地元経済や地域雇用を支え続けている。

信仰の対象と芸術の源泉として名高い富士山、山麓の近代産業の遺産を巡ることは、富士山の知られざる魅力を見つける旅となるだろう。

しずおか遺産

「富士山の清流が織り成した産業革命」

#### 代表連絡先

担 当 小山町教育委員会生涯学習課

電 話 0550-76-5722

E-mail shougai@fuji-oyama.jp

住 所 〒410-1321

静岡県駿東郡小山町阿多野 130